

■ 1学期末にあたって

- 学期末を迎えました。それぞれ学年に応じた躰の時期、習慣形成期といわれる1学期のまとめとふり返りをしましょう。
- 4月からスタートした学級づくりの進行状況はいかがでしょう。ちょっと気になる子への支援については、ご苦労も多かったことと思います。
- 学期末のふり返りで参考にして欲しいことを挙げてみます。

児童生徒の観察を積み重ねると、年度初めには見えなかった課題が見えてきます。子ども達は、それぞれに不安や悩みを抱えています。それが大きすぎると、望ましくない行動やサインで表現したり、あるいは意欲を失い、課題に取り組もうとしなくなったりすることが多くあります。

教師はその場の対応で、強制的にでもみんなと同じようにやらせるべきか、あるいは少し待つ様子を見るべきか、迷うことがあります。

このようなとき教師はやはり、なぜその子がサインを送ったり、行動に表したりしているか、原因を探る必要があります。それを踏まえた上でこそ、確かな指導方針を立てることができます。

今回は、原因を探るための方法を考えてみたいと思います。原則は、普段からその子を「知る」努力をすることです。

1 情報収集と行動観察を丁寧にする。

その子の行動の背景となっているものを探します。そのためには、過去の情報や現在関わっている人からの情報を集め、多角的に分析できるようにします。同時に、行動観察も丁寧に行います。



2 背景として考えられることを整理する。

まず担当者が背景として考えられそうなことを、下記の視点から大まかに整理してみます。

- (1) 障がいなどの一次的なものなのか。
- (2) 生育(愛情の不足、心の傷)や現在の環境など二次的なものなのか。
- (3) (1)(2)の両方なのか(一次を持っている子は、二次も持っていることが多い)。

3 支援策を練る。

- (1) 予想される背景についての支援策をいくつか立てる。
- (2) 案に従って具体的に支援を実行する。
- (3) 実行しながら支援案を修正し、より確かなものにする。



4 支援策を実行する。

- (1) 練り上げた支援策を長期的に、組織的に着実に実行していく。
- (2) 定期的に成果について検討する機会を持つ。

「特別な支援を要する子」とは……。

- (1) 本人の努力だけでは、改善が図れない子
- (2) 経験が積み重ならず、何回も同じ失敗をしてしまう子
目安としては、「2週間、同じ指導をしていても成果が見られない場合」